

奥武蔵 大ドッケ (福寿草の花園) 山行報告

【山城】奥武蔵

【コース】浦山大日堂 (P) →福寿草自生地→大ドッケ→峠の尾根→浦山大日堂 (P)

【日時】平成 30 年 3 月 28 日 (水)

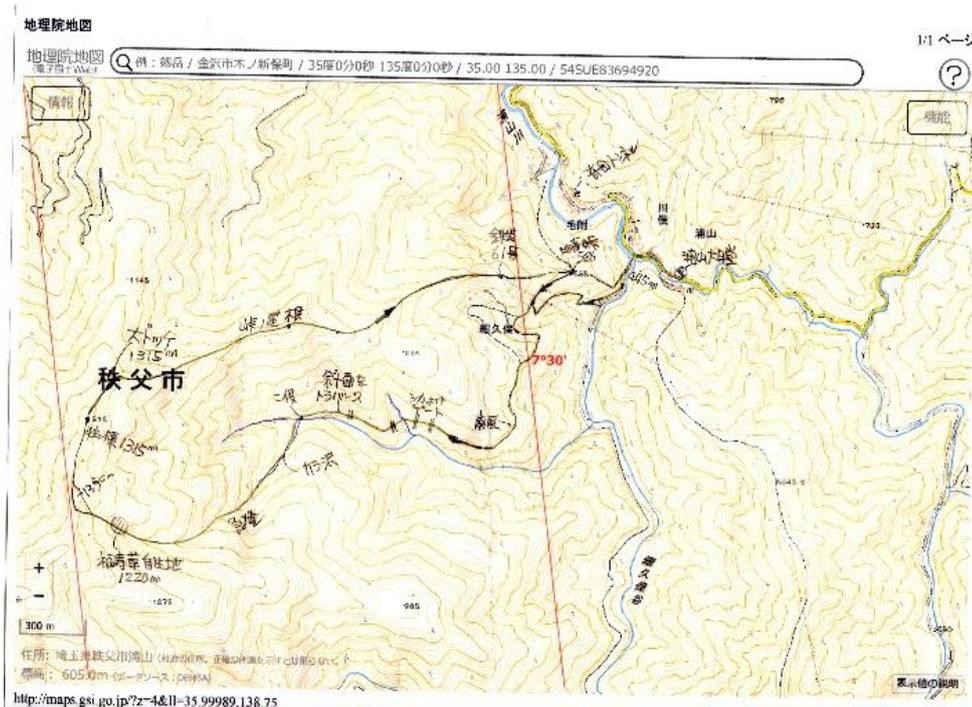
【天候】晴れ

【参加者】CL 鈴木憲二 鈴木愛子 (記録)

【行程】千葉 (自宅) 4:30⇒関越道・花園 IC⇒浦山大日堂 (P) 7:30⇒天目山林道入口⇒細久保集落分岐⇒沢登り口 (二俣) →福寿草自生地→大ドッケ 11:40→峠の尾根→61 号鉄塔→浦山大日堂 13:10 着 13:30 発⇒帰葉

【報告】

昭文社の地図上には登山道がなく、大ドッケの 1 2 5 0 m 付近に福寿草の自生群落地があり、ネット上では『秘密の花園』と言われている由、でも最近は多数の登山者や登山ツアーも入るようになり、もう『秘密の花園』ではなくなっているようだとのネットの情報を見て、福寿草の自生群落地を是非見てみたいと思い、山行を計画した。



浦山大日堂→カラ沢→福寿草自生地→大ドッケ→峠の尾根→浦山大日堂の地形図

「浦山大日堂」というバスの停留所の所に駐車する。そこは 4～5 台位駐車できるスペースがあった。トイレもあり、登山者には嬉しい。

好天に恵まれ、駐車した浦山大日堂を出発し、天目山林道に入り、すぐに右の細久保への山道に入り、廃屋を通過すると、1 個目の鹿よけネットにつきあたる。巻道とネットの向こう側に薄い踏み後があり、この辺りからバリエーションらしくなってきた。GPS や地形図により、ネットの向こう側の踏み後に行く。こんな鹿よけネットのゲートが 4 か所あった。ゲートの上の部分は細いロープで何重にもしっかり結んであり、最初はゲートの開け方が分からず、巻道の方に行ってみたりしたり、時間がかかった。よく見ると、下の部分は結び方が、緩かった。下の部分の結びを解いて通り抜け、そして下の部分を元のように結んだ。

そこから先は急斜面をトラバースして進んだのだが、踏み後の幅が狭く、左側は切れていて、断崖絶壁の岩場があり、ロープが 2 か所設置してあり、慎重に進んだ。そんな断崖絶壁の岩場にエイザンスミレが 3 輪

咲いていて励まされる。そんな岩場に花を咲かせる可憐な花の命に感動する。



エイザンスミレ



ハシリドコロ

急斜面をトラバースして沢に降りると、そこは二俣で、向かって左の沢（カラ沢）を登る。急登で時間がかかったが、足もとにはハシリドコロの新芽が沢山出ていて、踏みつけられない様に登っていく。傾斜が緩やかになってきた頃、前方にかすかに黄色の斜面が見えてきて、間もなく福寿草自生地（1220m）に着いた。満開で斜面一杯咲いていて、陽光に輝き、美しく、まさに『秘密の花園』で、私達だけしかいなくて、貸し切り状態であった。きつい登りの疲れが吹き飛び、感動であった。



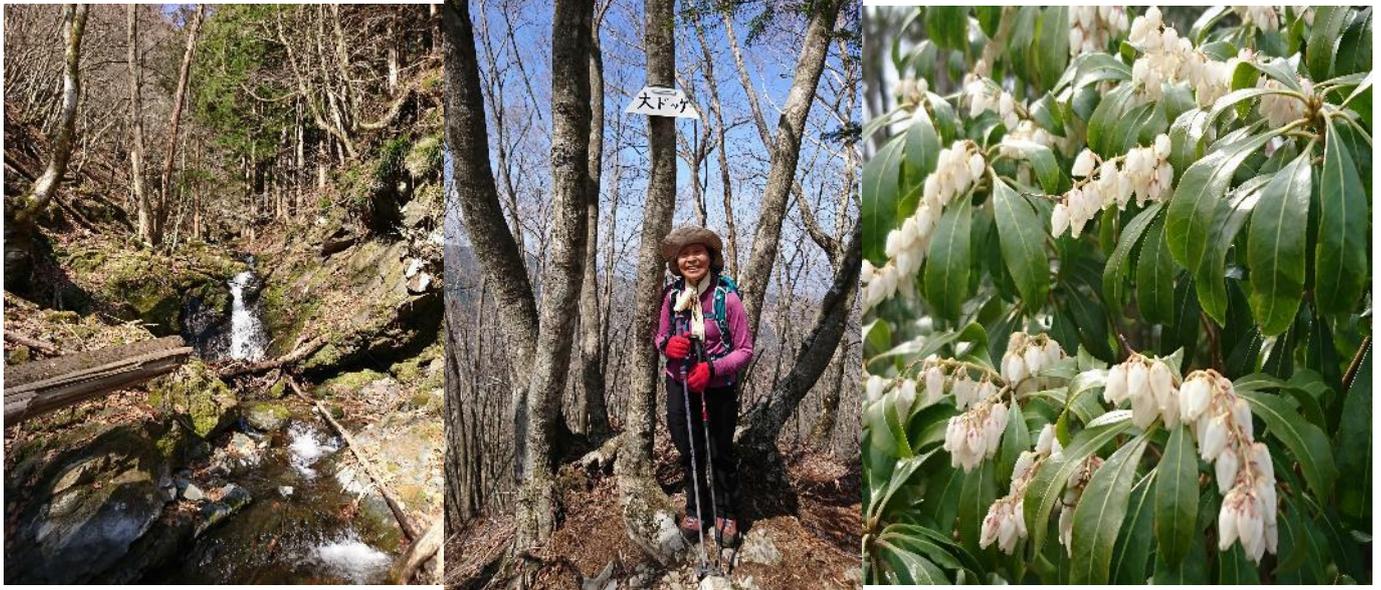
福寿草の自生地(秘密の花園)



福寿草

福寿草の自生地より1350mの尾根を目指し、急斜面を這い上がり、尾根づたいに独標（1315m）から大ドッケ（1220m）（ドッケとは、ネットの記録によると、突起が転じた言い方だそうである）から峠の尾根の長い下りを、61号鉄塔に向かって歩を進める。鉄塔の周りの斜面に馬酔木の木が沢山あり、白い花を一杯つけていた。花びらの一つ一つが可憐でとても綺麗であった。

鉄塔から地蔵峠を通り、浦山大日堂駐車地に13:10着。峠の尾根コースは赤テープが所々について迷うことなく浦山大日堂まで下りられた。道の駅で秩父のそばを食べて帰葉。



沢の小さな滝

大ドッケ頂上にて

馬酔木の花

○今回の山旅を終えて

樹林帯(杉、檜、馬酔木等々)の中を歩く、沢沿いに歩く、スリリングな岩場あり、福寿草の大群落あり、エンザイスミレ、ハシリドコロ、ムラサキスミレ、馬酔木の花等々に会え、変化があり、急登があり、きつかったけど、面白い山旅であった。

ちば山の皆さんにお勧めの山ですが、新人の方は、福寿草自生地まで分かりにくい所があるので、経験豊かな人と行くようお勧めします。